

<発言> 愛媛自治労連 梶田光行さん

皆さん、こんにちは。愛媛県第一班の労働組合の梶田です。こうして皆さんを見つめておりますとですね、ああ、やっぱりなというそんな感じを受け取ります。そのやっぱりというのは、私が一番の年寄りではないかと、こういうことです。平たく言えば、私みたいなじじいがこの席ですね、今回のテーマである官製ワーキングプアについてしゃべることが、果たして日本はほんとうに福祉国家になっているかと、そういう／＼を覚えます。皆さんそうは思いませんか。

私はこの3月まで愛媛県のダム管理事務所というところで働いておりました。身分は嘱託の警備員です。約10年間おりましたが、9回履歴書を出しました。1年が契約期間ですから。それから勤務は、正規の職員の方が休みの日曜祭日を、／＼いないのは夜間です。勤務以外のときにわれわれが1名でダム管理事務所を宿直と、そういうことをやるということなんです、勤務1回につき4回以上の巡視と、それからその他は宿直室で待機をしております、気象通報がありますので気象通報の受信と、それからそれに対する対応、それから連絡ですね。気象通報といいますが、注意報があればまたこれに対する解除もあります。警報に対しても、警報が発表されましたらその解除もある。その都度その都度対処せねばならんわけです。大雨、雷、洪水、それから落雷、高潮、高波、強風、波浪と、あらゆる注意報が、天気のことですから、定期的じゃないですからいつ入るかもわかりません。これ非常にたいへんだと思いますが、それと、県の防災無線からいろいろな注意事項とかいろんな問題が入ってきます。それに対する対応とそれに対する受信表をとっておいて、特質といいますか特例としましては、真冬の寒風の吹きすさぶなか、寒いのに湖のなかにですね、ダム、飛び込む人おるんですよね。そういう飛び込む人はすでに土左衛門となっておりますが、その土左衛門をボートを出して引き上げてくる、そういう仕事もあるんです。皆さんが想像する以上に、仕事にはたいへんなところもあるんです。

仕事のことはその辺でおきまして、勤務時間なんです、勤務時間非常に長いんです。正規の職員が午後の5時15分ですか、終わります。それから明朝の8時半に出勤してくるわけですが、その間を私たち2名ですが、勤務は1名ですから1名がカバーしてるということです。ですから時間的には約15時間です。もちろんそれは拘束時間で、少々の仮眠も可能ですが、ほとんど仮眠もとれないという現実です。それが月にだいたい7回程度やっております。

現在愛媛県の最低賃金は、皆さんご存じのように632円なんです。ですから15時間働けば、少なくとも1回につき9,000円はあるわけですね。ところが私の賃金は、深夜割増も含めて、その当時1回につき6,400円。これを時給に直しますと、わずか374円でした。ちょっと信じられないですかね。こういう安い賃金が現実にあるということは、ちょっと信じられなかったものですから、労働基準監督署に個人的に駆け込みまして、説明をしてもらったり調べたりしてもらったんです。そうすると、最低賃金以下で労働者を雇用できるという制度があるということを初めて知ったんです。それは最低賃金適用除外という制度なんですけど、その制度が私の勤務する職場以外の、愛媛県のすべての嘱託警備員に全員に適用されているという、現実を知りました。しかしその現実を知ったときに、は一つとため息が出ましたよ。人をばかにしとるんじゃないかと思いました。

それから、最低賃金適用除外というのは、個人の力ではどうしようもないですね、制度ですから。ですから労働相談を電話でしましたところ、組合があるということを知りまして、2名で組合に加入しました。私の1カ月のその当時ですが手取りは、10万あるかないか、そういうところでした。10万前後というのは、生活保護にも満たないんです。そういう最低賃金除外というのは、生活保護の水準以下です。本来県民の生活を守るべき愛媛県が、自ら雇用するわれわれのような労働者を、生活保護水準以下で働かせ続けるということに、非常に怒りと憤りを覚えました。

それでもねばり強く交渉した結果、10万とそれから40円の時給を上げることに成功しました。勝ち取ることができました。最低賃金除外は、2年前、制度の名前だけを変えたんですが、その名前は最低賃金減額特例と名前を変えましたが、内容はまったく変わっておりません。私はこの4月に定年になりましたが、1人でも多くの方に加入を、組合の加入をするために、現在組合に残って微力ながら仕事をしております。

もう時間ですので最後のメッセージを言わせてもらいます。警備員になるまで私はカイジョウノボウドウシャでした。ですからそのことを念頭において、踏まえて、県内の警備員の皆さんに、ただ乗りはやめてください、運賃は払ってください、目的地に早く着くためには、どうしても皆さんの時間と協力が必要なんです。さらに、会場の皆さんにも、少数派になることを恐れずに、勇気をもって、世のなかの不条理に対してこれを打破するために、声をあげて発信していきましょう。終わります。(拍手)